

事故報告(注意喚起)

九州地方整備局 港湾空港部
工事安全推進室

管内事務所の工事で発生しました事故について、事故発生の原因及び再発防止対策を取りまとめましたので情報提供致します。

I. 事故概要

発生日時 : 令和7年12月1日(月) 10時20分

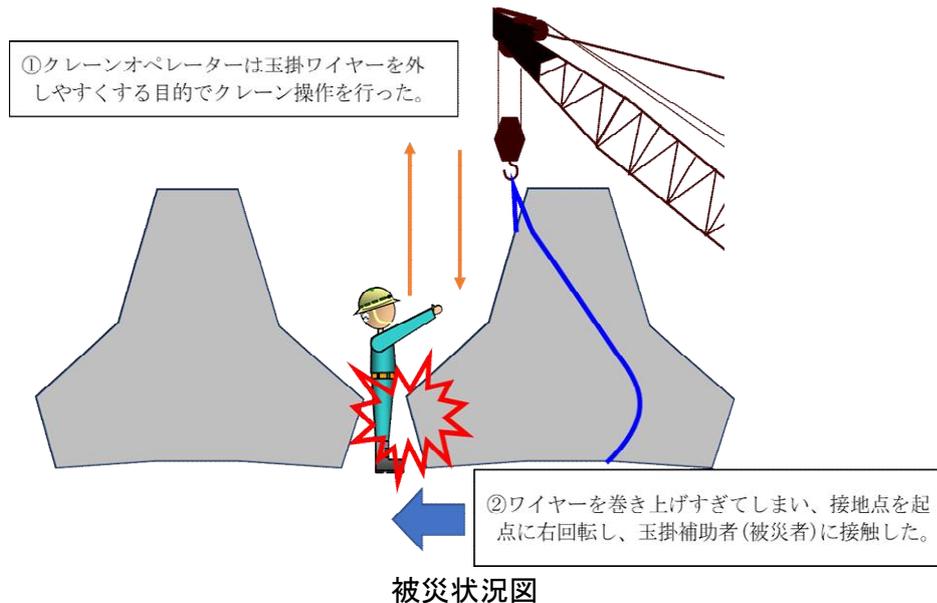
作業内容 : 消波ブロック積込

被災状況 : 右仙腸靭帯損傷/右臀部筋層内出血/右腸骨部皮下血腫/右腸骨骨折

II. 事故発生状況

作業船にて消波ブロックの積込を行っていたところ、玉掛ワイヤーが張ったまま外れなかったため、クレーンオペレーターは玉掛ワイヤーを外しやすくする目的で、地切りする意図はなく吊り上げ方向へ微調整を行った。

その操作により消波ブロックが右回転する荷振れが発生し、隣接する消波ブロックとの間に玉掛補助者(被災者)が挟まれ、被災した。



III. 事故発生の原因

- 1) 玉掛補助者(被災者)が玉外し作業を行った位置が、吊荷に挟まれ危険がある不安全な位置であった。【安全管理の不備】
- 2) 玉掛補助者(被災者)は、クレーン操作中であるにもかかわらず、クレーンが停止していると自己判断して玉外し作業に入った。【危険に対する認識不足】
- 3) クレーンオペレーターは、玉掛ワイヤーが外れなかったため、合図者兼玉掛者からの合図が出ていないにもかかわらず、自己判断でクレーンを操作した。【作業手順の不備】
- 4) 合図者兼玉掛者は、消波ブロックが接地し玉掛ワイヤーが緩んだので玉外し可能と判断したが、合図を出していないにもかかわらずクレーン操作が行われていた時にクレーン操作を止めようとしなかった。【作業方法・作業手順の不備】

IV. 再発防止対策

- 1) 消波ブロックを積み込む際は、吊具の位置を周囲構造物等で玉掛者等が挟まれない開放された向きになるように設置する。【作業方法・作業手順の改善】
- 2) 消波ブロック積込作業に従事する全ての作業員(クレーンオペレーター・合図者兼玉掛者・玉掛補助者)は、作業中の合図・連絡を確実にを行うため、ハンズフリー型無線機(片耳タイプ)を必ず使用する。【作業方法の改善】
- 3) 合図者兼玉掛者は、玉外しが可能な状態になったことをクレーンオペレーターに連絡し、クレーンオペレーターは、その連絡内容を確実に復唱して応答する。また、合図者兼玉掛者は、クレーンオペレーターの復唱により、クレーンが誤作動しないことを必ず確認する。その後、玉掛補助者は通話内容を確認したことを合図者兼玉掛者へ復唱し伝える。【作業方法・作業手順の改善】
- 4) カラーコーン等で退避場所を明示し、玉掛補助者はクレーン作業中は退避場所で合図者兼玉掛者への復唱による応答が終わるまで待機する。その後、玉掛補助者は玉外し場所へ向い、玉外し作業を開始する。【安全管理の改善】
- 5) クレーンオペレーターは、吊荷に異常を感じ、クレーンの操作が必要と判断した場合は、事前に合図者兼玉掛者へその旨を伝え、双方で内容を復唱し相互確認を行う。その際に、玉掛補助者は会話内容を確認したことを合図者兼玉掛者に復唱し伝える。再度クレーン操作を行う際は、合図者兼玉掛者の明確な合図を受け、クレーンオペレーターはその合図を復唱し確認した上で、周囲の安全を確認しクレーン操作を開始する。【作業方法・作業手順の改善】